

100年企業を目指す大豊建設を支える社員たち

本社ビル



女性社員 働き方座談会



管理本部
人事部人事課

堀川 順子さん

(入社12年目)



土木本部
土木技術部技術設計課

長田 裕美さん

(入社5年目)



東京建築支店
建築設計部第二設計課

菊池 紀恵さん

(入社4年目、キャリア採用)

一人一人がもれなく活躍できるように
社員教育を行っています

勤めていることを

誇れる会社です

技術力というぶれない軸をもって
いろいろな挑戦していこうという
気持ちを感じます

——皆さんは普段どんなお仕事をなさっているのですか。

堀川 新卒採用を中心に、インターンシップ(就業体験や現場見学を担当しています。いかにして参加学生に入社したいと思ってもらえるか、面接を通して大豊の魅力を伝えられるかを考えながら学生と接しています。

長田 私は、土木現場からの問い合わせに答えたり設計照査や仮設構造物の計算、コンクリート解析業務などをしたりしています。

菊池 設計部で建築の構造を担当しています。技術研究所を担当しました。

——大豊建設に入社を決めた理由を教えてください。

堀川 大豊の本社を訪ねて、働きやすそうな職場だと感じ入社を決めました。

長田 高い技術力があり、勤めていることを誇れる会社だと思ったのがきっかけで、堀川さんと同じく、会社の雰囲気にも惹かれたのも理由です。

菊池 もともと設計事務所で勤務していましたが、より現場に近いところで働けるゼネコンへの転職を決めました。アットホームな雰囲気や自分合意な会社だと感じて、大豊を選びました。入社して、部門間の垣根を超えた交流があると感じています。

——女性にとって働きやすい職場だと感じますか。

堀川 社員約1000人のうち約80人が女性で、人事部は9人中4人が女性です。お2人の部署はどちらですか。

菊池 建築設計部は25人いて、部署内の3割弱を女性が占めています。

長田 土木はまだ少数で、全国で5人。私以外は現場で働いています。

堀川 入社した時に「女性と男性を区別せず対等に仕事を



任せる」と言われていて、やりたい仕事を率先してやらせてもらっています。当社は自由に仕事をさせてもらえる社風だと思います。

長田 入社5年目を迎えて、任せてもらえる仕事が増えてきました。菊池さんはキャリアアップなので、即戦力として仕事を任されたのではないですか。

菊池 すべてとはいきませんでしたが、設計事務所とゼネコンの設計部では求められる事が少し違っているので、徐々に順応していききました。ゼネコンは、工事部門とのより密接なコミュニケーションが大切だと感じます。

——仕事をする上で心がけていることはありますか。

堀川 対象となるのが学生や大学の先生なので、なにより人に対して誠実に対応することを心がけています。

長田 現場の方とのやりとりが多いので、本社の土木技術部では当たり前のことが現場ではそうではないということがよくあります。自分の検討書が現場の方に理解してもらえなければ意味が無いので、誰が読んでも分かる検討書を作りたいと思っています。

菊池 沢山の人が関わって成り立つ仕事なので、一緒に仕事をすると人達とのコミュニケーションは大切で、お客様の意向や、検討の意図がしっかりと伝わるように心掛けています。人事は人と対面することの多い仕事なので、特にコミュニケーションが求められるのではないですか。

堀川 そうですね。人見知りですが、そこをカバーできるように頑張っています(笑)。

——苦労していることはありますか。

長田 いまの自分の知識量では及ばない部分が多いと痛感しています。書類を作成して上司に助言をもらって修正する作業を繰り返しています。

菊池 私の場合は時間不足なのがネックです。業界的にみんなそんなものかなとは思っていますが、上手な息抜きが必要ですね。

堀川 人事部は就活シーズンと入社前は一番多忙です。ちょうど今の時期です。時期によって仕事の量が隔たりがあるのは職種上仕方のないことなのかもしれません。

菊池 働き方改革は企業に対して求められている事です。ですが、企業側だけでは難しいと感じています。工期や納期を守って、お客様の要望にお応えし、サービスを提供することが企業の役割であり、お客様と施工者が互いに理解し合いながら一つ一つ解決していく努力が必要だと思っています。

——異なる職種にチャレンジ



「部門間の垣根を越えた 交流があると 感じています」



——ジしてみたいと思うことはありますか。

長田 建築はオシャレな建物が多いため憧れます。土木はトンネルや橋梁など、出来上がる物が大体グレーなので(笑)菊池さんはどうですか。

菊池 土木は構造物の規模がけた違いです。建築が考えているよりも、もっと大きな自然の脅威に対して設計しているところに格好良さを感じます。土木に携わってみたいと思うこともあります。

——堀川さんは大学で文系の学部所属していたとのことですが知らない業界に入る怖さはありませんでしたか。

堀川 建設業界のことをほとんど知らずに入社を決めたので、逆にギャップを感じることもありませんでした。入社後に感じたのは、現場での時間外勤務の多さや拘束時間の長さですね。2024年から時間外労働の上限規制が適用されるため、昨年から勤怠管理システムを導入し、労働時間や有給休暇取得状況を速やかに把握できるようにしました。勤怠管理他業務の効率化を図ることができれば、より休暇を取りやすい職場になると考えています。

——大豊建設の強みはなんですか。

菊池 新しい取り組みとはいえ、東京建築支店では昨年からフリーアドレスを導入し始めました。経営者の方々がいろいろなことを受け容れる姿勢でいてくださるのがあります。会社での社員同士の距離が近いので、仕事をすると時にも楽しんでいます。機動力も発揮しやすいです。

長田 70周年を迎えるにあたり、本社ビルを改築したり技術研究所を建設したりしたほか、ICT施工の導入にも意欲的です。新技術を取り入れ時代の流れに乗ろうという意思を感じます。技術力は誇れますね。

堀川 学生たちの志望動機で一番多いのが「大豊の技術力や社風に惹かれて」というものです。

菊池 技術力というぶれない軸をもって、いろいろな分野に挑戦していこうと思っています。

長田 当社では年に一度、



「技術フォーラム」という各現場の技術発表会が開かれます。昨年からフォーラムのウェブ配信を開始し、各支店で発表会の模様が閲覧可能になりました。

菊池 技術研究所建築プロジェクトに参加したので、私は去年フォーラムで発表させてもらいました。

——目標を教えてください。

堀川 学生に「この会社に入社してよかった」と思ってもらえるよう、また一人ももれなく会社で活躍できるように一層社員教育や啓蒙に力を注ぎたいです。

長田 入社してからずっと本社勤務ですが、これからは現場に配属されることもあると思うので、これまで培った知識を糧に、現場でも活躍できるように頑張ります。

菊池 能動的に活動すれば受け止めてくれる社内風土があるため、今回技術研究所の建設に携わって新しい技術との接点を持たせてもらったように、新しい事にでも取り組んで、それを会社に還元できればいいなと思います。

——最後に、どうやって息抜きをしていますか。

長田 お酒が犬を飼育することです。

堀川 私も犬は好きです。いざれ運動もしたいと思っています。

菊池 舞台やコンサートに行っています。堀川さんと同じく、そろそろ体力づくりをしなければいけないとは思っていますが、なかなか一歩踏み出せません(笑)。

長田 会社にくつか部活があります。私はたまにテニス部に参加しています。堀川さん、菊池さんぜひ参加してみてください。

司会・日刊建設工業新聞社 高岡 結希

未来につながる夢のある会社

私たちが新生大豊の技術力と人財を
次世代につなげていきます